2024年度　一般入学試験　前期日程（1月31日）

国　　語

（試験時間　60分）

注　意　事　項

1　**試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。**

2　この問題冊子は，27ページあります。

3　試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせなさい。

4　**解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので，それぞれ正しく記入し，マークしなさい。**

①　**試験コード欄・座席番号欄**

試験コード・座席番号(数字)を**記入**し，さらにその下のマーク欄に**マーク**しなさい。**正しくマークされていない場合は，採点できないことがあります。**

②　**氏名欄**

氏名・フリガナを**記入**しなさい。

5　解答は，解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば，**10** と表示のある問いに対して③と解答する場合は，次の(例)のように**解答番号10**の**解答欄**の③に**マーク**しなさい。

（例）

解答番号	解　答　欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪

6　問題冊子の余白等は適宜利用してよいが，どのページも切り離してはいけません。

7　試験終了後，問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問　次の文章は、ある評論文の「はじめに」として書かれたものの一部である。これを読んで、後の問い（**問1**〜**10**）に答えなさい。

構築主義という考え方がある。何事も最初から本質的な性質を備えているわけではなく、さまざまな作用のなかでそう構築されてきた、と考える視点だ。よくあげられる例は、「ジェンダー」だろう。男性は生まれたときから「男らしさ」をもっているわけではない。社会の制度や習慣などによって「男らしさ」を身につけてきた。だから「男らしさ」は社会的に構築されてきた。そう考える。

この考え方は人類学だけでなく、社会学など人文社会科学では、もはや常識になっている。構築されているのは、「男性」や「日本人」といった社会集団の性質だけにとどまらない。

昔は「ストレス」という言葉はなかった。【　a　】、いま「ストレス」という語句を使わずに、「あのいやな感じ」を説明することはできない。「ストレス」という言葉が一般化したことで、人の感覚すらも構築されてしまう。ある言葉や概念が、ぼくらがずっとそこにあると信じて疑わない「現実」さえもつくりだす。「児童虐待」や「ストーカー」だって、昔はなかった概念が生まれたことで、はじめて社会問題として構築されてきた。

(A)こうした構築主義の視点は、既存の秩序や体制を批判するとき、とても有効だった。ジェンダーだったら、性差別を批判し、性差にもとづいた社会制度（(イ)コンイン制度や(ロ)シュウギョウ慣行など）に正当性がないと主張する有力な武器となった。構築主義が批判理論のひとつとされるのは、そのためだ。

カナダの哲学者であるイアン・ハッキングは、構築主義者の多くが社会の現状に批判的なので、（1）Xのあり方には必然性がない↓（2）Xは悪い↓（3）Xを排除すればましになる、といった論理構成をとる、と指摘する。

いろんな現象の構築性を批判するのはいい。でも批判のあとには、どこか虚（むな）しさが残る。男らしさも、日本人らしさも、社会的に、歴史的に、構築されてきたのはわかった。あらたな概念がつくられると、ぼくらの感覚や物の見方もがらっと変わってし

まう。それもいい。で、じゃあどうしたらいいの？　そんな疑問が浮かぶ。

物事の構築性をふまえたうえで、なにをどう変えていけばいいのか。この本では、その問いから考えていこうと思う。

構築主義には、視点を転換する力がある。でも、その核心は「批判」そのものにはない。(B)もっと別のところに可能性があるのではないか。

いまここにある現象やモノがなにかに構築されている。【　b　】、ぼくらはそれをもう一度、いまとは違う別の姿につくりかえることができる。そこに希望が芽生える。その希望が「構築人類学」の鍵となる。

いまの世の中にどこか息苦しさを感じたり、(ハ)イワ感を覚えたりしている人にとって、最初から身の回りのことがすべて本質的にこうだと決まっていたら、どうすることもできない。でもそれが構築されているのであれば、また構築しなおすことが可能だ。

ではどうやって別のものに再構築できるのか？

これまでの「構築されている（だからそんなものに正当性はない！）」という批判から、「どこをどうやったら構築しなおせるのか？」という問いへの転換。それがこの本の目指す「構築人類学」の地平だ（まだ(ニ)サンドウ者はいないけれど……）。

【　c　】簡単に答えは出ない。だから最初に、ぼくら一人ひとりがいま生きている現実を構築する作業にどう関与しているのか、その関わり方を探ることからはじめよう。そこで手がかりになるのが、人と人とがモノや行為をやりとりする「コミュニケーション」だ。

一九二五年に発表されたマルセル・モース(注)の『贈与論』は、人類学の可能性を世に知らしめた古典的名著(ア)だ。これまで多くの人類学者が、繰り返し『贈与論』に立ち返って研究を深めてきた。

モースは、まず次のような問いを立てる。未開社会では、どんな規則が受けとった贈り物への返礼を義務づけているのか。贈られた物に潜むどんな力が、受けとった人に返礼をさせるのか。

古くから多くの社会で、交換や契約は贈り物のかたちで行われてきた。表面的には自由意志にもとづきながらも、実際には義

務として与えられ、返礼されている。モースは、(C)この「義務」の生成に注目して、現代にもつながる道徳と経済との関わりを考えようとした。そこには、自己利益の計算だけに終始する世界が出現しつつあることへの危機感があった。

モースは、贈与が法や経済、宗教や美など、社会システム全体に関わる現象だと考えた。本書も、この考え方にならおうと思う。贈与的な行為を、正反対の行為だとされる「商品交換」や「市場」、そして政治の制度である「国家」との関係のなかに位置づけてみる。(D)他者とのモノや行為のやりとりが社会／世界を構築する作業であることを確認しながら、そのどこをどう動かせば変えることができるのか、その手がかりを探したいと思う。

モースは、贈与にはさまざまな側面があると指摘した。それはかならずしも(ホ)ジアイに満ちた行為とはかぎらない。返礼の義務があるなかで、返せないほどの贈り物を渡して、相手の名誉を傷つけ、従属させる「ポトラッチ」という儀礼もある。でも、たとえ支配と従属であっても、そこには人と人とをつなぐ「［X］」ができる。これが贈与の力だ。

モースは言う。「贈り物というのは、与えなくてはならないものであり、受けとらなくてはならないものであり、しかもそうでありながら、もらうと危険なものなのである。それというのも、与えられる物それ自体が双方的なつながりをつくりだすからであり、このつながりは取り消すことができないからである」（『贈与論』岩波文庫、三六九頁）。贈与は怖い。でも、世の中のバランスを取り戻すには、おそらく、この贈与の力がいる。

世界は、分断されている。

「知らない」とか、「関係ない」とか、「敵だから」とか、いろんな認識の壁で分断されている。この関係の断絶は、ぼくらの［Y］を麻痺させる。人を殺すことだって、人が殺されているのを無視することだって、できてしまう。だからこそ、他者に向き合い、その姿にみずからを映しながら、いろんな「つながり」を回復する必要がある。

必要なのは、市民が自分自身について、他者について、社会的現実について、鋭敏な感覚をもつことだ。モースはそう書いている。でも、どうやったらその「鋭敏な感覚」をもてるのか。その「感覚」は「贈与」とどう関係しているのか。それが本書の問いのひとつだ。

モースは言う。私たちの生活は、いまだに贈与と義務と自由とが混ざり合った雰囲気のなかにとどまっている。物には情緒的な価値が備わっていて、貨幣価値に換算される価値だけがあるわけではない、と。たぶん、それは現代の日本でも変わらない。

グローバル市場が席巻（イ）したようにみえる世界でも、贈与がもつ「つなぐ」力は消えたわけではない。それは、(E)「つながり」を失わせる力との拮抗（きっこう）のなかで、いまもぼくらの世界をつくりだしている。

でも、たぶんあまりにいろんなことが絡まりすぎているのだと思う。複雑すぎて、なにから手をつけていいのかわからない。モースの言葉を胸に刻んで、まずは、一つひとつ絡まった糸をほどいていこう。

（松村圭一郎の文章による。ただし、一部変更した。）

（注）マルセル・モースの『贈与論』…マルセル・モースはフランスの文化人類学者（一八七二―一九五〇）。『贈与論』は、「贈与」をはじめ、未開（＝文明の外にある）とされた民族による交換行為などについて論じた、モースの代表的な著作である。

問1　空欄【 a 】～【 c 】に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は 1 ～ 3 。

a 1
① ところが　② つまり　③ ところで　④ とりわけ　⑤ さらに

b 2
① たとえば　② このように　③ あるいは　④ とはいえ　⑤ だとしたら

c 3
① こうして　② もちろん　③ しかるに　④ それゆえ　⑤ そして

問2 破線部**ア**「古典的」・**イ**「席巻」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 4 ・ 5 。

ア「古典的」 4

① 後世の文化に資する価値があること
② 古くからの伝統が続いていること
③ 格式があり重々しいこと
④ 古風なスタイルで書かれていること
⑤ 為政者から正統と認められていること

イ「席巻」 5

① 一つにかたまっていたものが広がること
② 相手を打ち負かすこと
③ 勢力を大きく拡大すること
④ 環境に適しないものを排除して広がること
⑤ 自由気ままにふるまうこと

問3 波線部(A)「こうした構築主義の視点は、既存の秩序や体制を批判するとき、とても有効だった」とあるが、なぜこのように言えるのか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は **6** 。

① 構築主義は、既存の制度や概念を見直したり考え直したりする中で生まれてきた考え方であるため、新しいものを批判するよりは、古くからあるものを批判するのに特に有効であるから。

② 構築主義は、それ自体が新しい考え方であるため、構築主義を学ぶことで自然と古い概念や制度に目が向くようになり、その欠陥が見えるようになることで、批判のための論点や議論を導きやすくなるから。

③ 構築主義は、ある制度や概念がはじめからあったものではなく、さまざまな作用の中でつくられたものだとする考え方であるため、それらのものに正当性や必然性があるわけではないことを指摘するのに有効だから。

④ 構築主義は、あらゆる出来事や制度、概念に対して適用できる考え方であるため、一見すると批判のしようがないほど古くから確立されている考え方や制度などに対しても、批判の糸口を見いだすことができるから。

⑤ 構築主義は、「ジェンダー」などの新しい概念をつくりだす過程で生まれてきた考え方であるため、単に古い考え方や制度を批判するだけではなく、新しい枠組みでの考え方を同時に提案することができるものだから。

問4 波線部(B)「もっと別のところに可能性がある」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は **7** 。

① 構築主義は、ある概念がつくられたことを明らかにするという視点の転換よりも、そのことによって自分自身の立脚点を見直させる点にこそ意義があるということ。

② 構築主義は、既存の秩序や体制を批判するというよりも、既存の考え方の限界を明らかにして、別の方法があると人々の姿勢を転換する点にこそ意義があるということ。

③ 構築主義は、すべてのものが決定している本質主義を批判するというよりも、本質主義の考え方をつくりかえ、それを世の中で役立てるものにする点にこそ意義があるということ。

④ 構築主義は、あることがつくられたものであると暴いて批判するというよりも、どうつくりかえうるかという視点を与えてくれる点にこそ意義があるということ。

⑤ 構築主義は、既存の考え方に正当性がないと主張するよりも、それまで見いだされていなかった考え方がかならずしも間違っていないことを見いだす点にこそ意義があるということ。

問5 波線部(C)「この『義務』の生成」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は **8** 。

① 未開社会において交換や契約はそれ自体が贈り物という形として与えられ、その結果として誰も交換や契約から逃れられなくなるということ。

② 贈り物は自由意志にもとづいているように見えるが、社会的には当然返礼すべきという共通の了解が生じてくるということ。

③ 古くから多くの社会では贈り物がかならずすべきこととして決められており、そこに個人の自由意志は存在しないということ。

④ 誰か一人が贈り物を始めることで返礼しなければならないというルールがつくりだされ、そこから連鎖的に贈り物が発生し続けているということ。

⑤ 贈り物は一見すると自由意志にもとづいてなされるが、実際には権力者が贈り物のルールを厳密に定めているということ。

問6 波線部(D)「他者とのモノや行為のやりとりが社会／世界を構築する作業であること」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は **9** 。

① 贈与は一回なされたらそれで終わりということではなく、そのような贈与が行われる社会の雰囲気や人間関係をつくり続けるということ。

② 国家や市場の中で、ある意味での贈与は常に行われており、そのように考えると、贈与こそが最も重要な概念としてとらえられるということ。

③ 他者とモノや行為を交換することは、未開社会だけでなく現代社会でも頻繁に行われており、人と人との関係の本質だということ。

④ 社会とは人と人との関係のことであり、そうした関係性を経済・市場・宗教などにおいて円滑につくりあげていくためには、贈与こそが最も重要だということ。

⑤ 贈与は法・経済・宗教など社会システム全体の中で起こっており、そうした贈与が今の社会や世界そのものを不断につくりだしているということ。

問7 空欄 X ・ Y に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は 10 ・ 11 。

X

10

① 前例
② 縁故
③ 因習
④ 存在
⑤ 関係

Y

11

① 倫理性
② 主体性
③ 客観性
④ 義務感
⑤ 喪失感

問8 波線部(E)「『つながり』を失わせる力との拮抗のなかで、いまもぼくらの世界をつくりだしている」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 12 。

① 私たちの社会では、戦争や暴力など、人と人との関係は負の側面のほうが大きいが、贈与の力によって人々に希望を与え、よりよい世界をつくっていくことができるということ。

② 贈与は返礼義務によって人と人との関係をむしろ絶とうとするものだが、贈与の方法を工夫することによって、人同士をつなぐものとすることもできるということ。

③ 贈与は、人と人とが「知らない」「関係ない」と互いの関係を断絶する現代社会において、他者への思いやりを表現する行為としてもう一度見直されるべきだということ。

④ 現在の世界では、さまざまな認識の壁が関係の断絶を引き起こそうとするが、贈与は人と人との関係をつくりだすことで、そうした分断に対抗する力を発揮しているということ。

⑤ 未開社会においては、人と人とを分断する行為となった贈与だが、現代社会においては贈与は社会システム全体に波及し、むしろ人同士をつなぐ行為だということ。

問9 本文において、筆者はモースとその著作に対してどのような態度をとっているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は **13** 。

① 現在では既に古くなった議論として批判されてきたモースとその著作であるが、その論点には見るべき点もあったとして擁護している。

② 文化人類学者の間では有名なモースとその著作であるが、筆者は社会学の観点からこれを批判し、領域横断的な学問をつくりだそうとしている。

③ モースとその著作の価値は既に定まっているが、筆者はその論点を広げる形で応用することで、現代社会の課題に新たな提言をしようとしている。

④ 文化人類学の古典として名高いモースの著作に対して、筆者は構築主義という現代的な考え方を対立させ、これまでにない新しい視点を提示しようとしている。

⑤ 現代社会の複雑な問題に対応するためには、モースの古典的で本質的な議論こそ有用だと判断し、モースの議論の価値を精緻に再検討している。

問10 二重傍線部(イ)〜(ホ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①〜⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 14 〜 18 。

(イ) コンイン 14

① コンセキが残る
② 彼はキコン者だ
③ コンシン会に出席する
④ 公私をコンドウする
⑤ 荒れた土地をカイコンする

(ロ) シュウギョウ 15

① 今後のキョシュウを決める
② シュウモクを集める
③ シュウネン深く追い詰める
④ イシュウが漂う
⑤ シュウトク物を届ける

(ハ) イワ 16

① 山中にごみをイキする
② 式の前にイギを正す
③ ゴイが豊富である
④ 会社をイガン退職する
⑤ 裁判でイケン状態と判断される

(ニ) ‖サンドウ

17

① ‖サンバシへ釣りに出かける
② 夕方には‖サンカイした
③ 新規事業に‖サンニュウする
④ 博物館の‖サンジョ会員となる
⑤ ‖サンケツ状態に陥る

(ホ) ‖ジアイ

18

① ‖ジミにあふれた料理でもてなす
② ‖ジゼン事業を行う
③ ‖ジキを帯びた石を掘り出す
④ 天皇の‖ジュウ
⑤ ルイ‖ジ品に注意する

第2問　次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えなさい。

ア　雨の擬音語は、ざあざあ、しとしと、ぴちぴちなど色々あるが、雪はそういうわけにはいかない。(イ)自ら音を発せず、むしろ音を吸い込む。それを「しんしん」の語が言い表している。

いつも以上に雪の多さが伝わってくる冬である。湿った重い雪に悩まされているという札幌市の話が、本紙北海道版にあった。雪が［　X　］この地では、除雪だけでなく、その雪をダンプで運び出す「排雪」という作業が欠かせない。(ロ)この冬は重い雪ゆえに除雪に労力がかかり、排雪になかなか手が回らないという。

のけられた雪が道路脇に積み上がり、車の通行が滞っているらしい。大寒のきょうも、日本列島の広い地域で雪になりそうだ。雪かきや車の運転では、事故のないよう十分な注意を。(ハ)

イ　詩人の高村光太郎は、岩手県の山あいの小屋に一人で暮らしていた時期がある。(ニ)冬の日のことを「雪白く積めり」の詩にした。

〈雪林間の路をうづめて平らかなり。／ふめば膝を没して更にふかく／その雪うすら日をあびて燐光を発す〉。

ウ　〈十歩にして息をやすめ／二十歩にして雪中に坐す〉。雪の美しさと［　Y　］を伝える詩は、自分と向き合う生活から生まれた。もう6度目になる感染拡大により、雪のある地域もそうでない地域も家にこもる時間がまた増えそうだ。

手元の辞書では「しんしん」は漢字で「深深」あるいは「沈沈」と書く。雪以外に使うなら「しんしんと冷える」あたりか。(ホ)いかにも冬型という天気図をながめながら、寒波に身を構える。

（『朝日新聞』二〇二二年一月二〇日「天声人語」による）

問1　破線部**ア**「雨の擬音語は、ざあざあ、しとしと、ぴちぴちなど色々ある」とあるが、このうち雨が「ざあざあ」降る様子の意味の表現として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 19 。

① 天気雨
② 煙雨
③ 小糠雨
④ 空梅雨
⑤ 篠突く雨

問2　空欄 X に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 20 。

① 解けない
② 凍けない
③ 退けない
④ 梳けない
⑤ 捥げない

問3 破線部**イ**「詩人の高村光太郎」とあるが、その詩集として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 21 。

① 『邪宗門』
② 『道程』
③ 『山羊の歌』
④ 『月に吠える』
⑤ 『二十億光年の孤独』

問4　破線部**ウ**「〈十歩にして息をやすめ／二十歩にして雪中に坐す〉」とあるが、この一節に用いられている修辞法として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は **22** 。

① 比喩
② 誇張法
③ 倒置
④ 対句
⑤ 擬人法

問5　空欄 Y に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 23 。

① 過酷さ
② 見事さ
③ 冷たさ
④ 神々しさ
⑤ 素晴らしさ

問6 筆者が本文を通じて表そうとしている内容は何か。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は **24** 。

① 擬音語は音をいきいきととらえるばかりでなく、あたり一面が銀世界となって音が消えたような世界も表現できるという示唆。

② 札幌市をはじめとする北国では道路の通行を雪が妨げているという状況認識と、車の運転についての注意喚起。

③ 水分の多い雪が道路に積もってしまうと排雪が困難になるので、通行の維持には早めの除雪が肝心だという問題提起。

④ 雪に閉ざされた山奥にこもり、戦争に協力した自らと向き合うことで、「雪白く積めり」を書き上げた高村光太郎への尊敬の念。

⑤ 北国の人が雪に対処する労苦を気遣い、雪にまつわる詩や言葉に思いをはせながら、寒波の到来を予測し、覚悟する気持ち。

問7 二重傍線部(イ)〜(ホ)の品詞名を、後の①〜⑧の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 25 〜 29 。

(イ) そういうわけにはいかない 25

(ロ) この冬は重い雪ゆえに 26

(ハ) 十分な注意を 27

(ニ) 一人で暮らしていた時期がある 28

(ホ) いかにも冬型という天気図を 29

① 名詞　② 動詞　③ 形容詞　④ 連体詞

⑤ 副詞　⑥ 接続詞　⑦ 助詞　⑧ 助動詞

◆ 写 真 提 供 等 ◆

2024年度一般入学試験前期日程（1月31日）【国語】
『朝日新聞』2022年1月20日「天声人語」
朝日新聞社（承諾番号：24-0957）

※上記記事に関して朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。